

# 男性介護者ネットワーク通信



3月8日午前の総会には、呼びかけ人として賛同した約80名の出席者で開催しました。会の結成宣言を津止正敏(立命館大学教授)事務局長が行い、役員体制では荒川不二夫(東京都荒川区男性介護者の会オヤジの会代表)を代表に、副代表に太田貞司(神奈川県立保健福祉大学教授)などを提案し、満場の拍手を得て選出されました。午後の発足記念講演会には北海道や九州から160名近い参加者がありました。新聞やテレビ、ラジオなどのマスコミの取材も多く、男性介護への関心の高さが、うかがわれました。来賓のキリン福祉財団の国松秀樹常務理事からは会への期待の祝辞をいただきました。記念講演の(社)「認知症の人と家族の会」高見国生代表理事(会の顧問)からは、「男性介護者が介護の社会化を前進させる大きな力になる」と根拠の数字を示しての話がありました。また真面目さの中にブラックジョークの織り交った講演は聞く人の心に溶け込み、発足したばかりの会や男性介護者に対する力強いエールとして伝わりました。男性介護の現状リレートークでは、介護体験記を寄せた人を含め、17名の男性介護者や福祉関係者が、介護やこの会に寄せる期待を熱く語りました。

## 「男性介護者と支援者の全国ネットワーク」発足にあたり

### 『介護の楽しさを実感できるように』

代 表 荒川不二夫

今回ご推薦をいただきました荒川不二夫と申します。本日は日曜日にもかかわらず、「男性介護者と支援者の全国ネットワーク」の発足会に対し、北は北海道から、南は九州まで大勢の方にご参加いただきましたありがとうございます。

この会の発足にあたりましては京都、長野、東京都で何度も準備会で協議を重ねてまいりました。そして本日ここに発足会を開くことが出来たのは、立命館大学の津止正敏教授に心血を注いでいただき、キリン福祉財団のご支援を受け、京都の「認知症の人と家族の会」に事務所をお借りするなど、みなさまのお力添えがあったのでございます。

私は妻を介護し看取りました。今また同じ病気の息子を介護しております。男は弱みを見せず孤独になりがちです。情報に疎く社会資源の活用など他人の手助

けをためらう傾向にあります。昨今、男性介護者は在宅介護者の3割を占めるようになり増えており



ます。虐待や無理心中のような悲しい状況にならないよう男性介護者同士の情報交換や支援などの交流が必要です。男性介護者と支援者の全国ネットワークの会を作ることで、各地で同じように悩んだり困ったりしている男性介護者が情報を共有し支えあうことが出来ればと思います。

マスコミのみなさんにはこの会のPRをお願いしたいと思います。多くの男性介護者がこの会を通じて自分たちの老後をすこやかに生き、介護の楽しさを実感出来るような介護生活が送れることを望みます。(運営委員：松村美枝子)

記念講演会 高見国生「認知症の人と家族の会」代表理事  
「男こそ『名介護者』になれる」 男性介護ネットへの期待  
男性介護者よ、声を上げよう！介護を社会の問題に

8年間のぼけた母親（養母）の介護経験がある先輩として、また、「認知症の人と家族の会」代表の立場から、「男こそ『名介護者』になれる」と題して講演が行われた。

講演の内容は五つのサブテーマで構成されている。

一つ目は「介護体験記に見る男性介護者の雄叫び」として、今回応募された152通の体験記の中から3通を選び、男性介護者の切実な悪戦苦闘振りを紹介した。多くの介護中の人には「俺もそうだ」と共感を持ったものと思う。

二つ目は「いま、なぜ男性介護者が注目される」であり、超高齢化社会の今だからこそ男性介護者の必要性が増しているといい、その理由として、介護には力がある。男でないとできないことがある。介護を社会問題化するには男の力がある。の三点を上げた。

三つ目は「男性介護者が増えてこそ介護は社会の問題になる」といい、介護者が嫁の割合は38%から15%に減少し、子供（息子）の介護や、老老介護が増加傾向にある。また、若年期認知症の割合も1%から18%に増加している。「家族の会」の男性支部代表も増加している。

を論拠として述べ、男性介護者の増加が介護の社会問題化への戦力になることに期待した。

四つ目は「男性介護者と女性介護者はどこが違う」と題して、持論を紹介した。男性介護者は、理論的で、規則正しく、辛抱強い。律儀に目標設定し達成に努力する。ストレスの発散と介護の割り切りが下手。という。その特質を理解し、男性同士助け合うことが大切と説く。

五つ目は「男性介護者ネットワークの必要性」を取り上げ、男性介護者の割合は30%を占め、それだけ多くの男性が介護上の困難に直面していると考えられる。介護者同士が情報交換を可能とするネットワークを構築すれば、問題解決に役立つ情報が得られ、介護上の労苦が軽減される。そして「男よ、名介護者になろう」と訴えた。

最後に、なぜ「男だけを名介護者になろう」と問いかけたかを上げ、「女性はとっくに名介護者である」といい、その必要性の無いことを強調して締めくくった。

(編集委員 芦田豊実)



## リレートーク

参加者の声、こえ



認知症の妻（58歳）を介護する京都府の芦田豊実さん（60歳）「認知症の症状は様々。それぞれがしている介護を情報

交換し、みんなでいかにできるようにしたい。一昨年、転勤命令で仕事を辞めたが、社会の理解が進み介護で離職しなくてよい社会実現を。」



49歳で発症した妻（65歳）を介護している千葉県の内田勝也さん（71歳）

「妻が若くして認知症になり、仕事をしながら介護してきた。大病して限界を感じ、それまでの一人で頑張る介護はよくないと思うようになった。情報交流していきたい。」

所用で出席出来なかった顧問の樋口恵子さんが会に寄せくださったメッセージです。  
会場では「高齢社会をよくする女性の会」京都府支部代表中西礼子さんが代読してくださいました。

## 「男性介護者と支援者の全国ネットワーク」ご発足にあたって ごあいさつ

「男性介護者と支援者の全国ネットワーク」発足を心よりお祝い申し上げます。  
かつて厚生労働省のポスターは言いました。「育児をしない男を父とは呼ばない」。そのひそみに倣い、私、樋口恵子は言いました。「介護をしない男を人間と叫ばない」。

介護は人間しかしない。他の動物は決してしない営みです。ですから、介護することは人間の証明です。

性別役割分業のもと育てられた男性は、具体的な介護の仕事に戸惑い、悩むことが多いでしょう。しかし一方で、男性には長年にわたって築き上げた社会的スキルがあります。孤立してはその力は発揮できませんが、まとめれば社会は動かされます。

今は小さな介護休業制度を、男性管理職モードに作り替えれば、企業の中の介護の位置づけが変わり、働く女性もどんなに助かるか判りません。

男性諸兄、介護の世界によろこそ！

真人間の世界へ、ウェルカム！

男女両性の協力で、介護が大きな化学反応を引き起こし、介護の地平が新たに拓けますように。広く、大きく、豊かに。

2009年3月7日

特定非営利活動法人 高齢社会をよくする女性の会理事長 樋口恵子

### 各地のつどい情報

都道府県	場所	日・時間	会の名前
東京都	荒川区社会福祉協議会3階	7月10日13時～15時	荒川区男性介護者の会オヤジの会
福岡県	福岡市市民福祉プラザ201号室	7月1日13時～16時	認知症の人と家族の会
長野県	6/6 上田市地域生活支援センターえん 14時～15時 6/13 小諸市相生町ノア 14時～15時		シルバーバックの会 問い合わせ先：0268-72-8039
京都府	京都社会福祉会館	6月13日 13時より	認知症の人と家族の会
兵庫県	5/16 伊丹市南町高層住宅 5/21 宝塚市鹿塩町 13時半 6/6 男性介護者と家族一緒に大阪海遊館にお出かけ会		スマイルウェイ 問い合わせ先：0797-62-9320

連載



## 俺流の介護

みんなの介護経験から生まれた十人十色の介護ノウハウの共有コーナーです



京都府 梅田四郎（妻：82歳を介護）

介護にあたって、およそ次のようなことを念頭においているつもりです。

1. 本人のマイナス言動のすべてが病気（妻の場合アルツハイマー型認知症）からきていることを、頭のどこかにおいておく（つい、そのことを忘れて「自己嫌悪」に陥りがち）。
2. その時どき、私が本人の立場だったら「どうしてほしいか」と考える。
3. 本人のペースに合わせる。最近、家庭では食事介助（ほぼ全介助）に約1時間以上かかる。長い時には、1時間50分かかるときもある。
4. すべて納得してもらってから進める。足の痛みのため、朝、晩ベッドで下肢を強くもみ上げるが、事前にその理由や、痛い時「痛い」と大声をあげてもいいと告げる。
5. 人格の尊重 本人は字を読めないが、手紙の開封など本人の目の前で、そして中味を説明。「オムツ」の表現は本人の前では一切しない。屈辱感を覚えるのではないかと思っ
6. 本人の前では、極力ため息をつかないように（つい、出ることがある）。
7. 本人の現状について、医師、介護施設、私の三者で常に認識を共有する。
8. 常に本人に「不安」があることを忘れないようにする。
9. 本人の清潔を心がける。
10. 一日でも長く、元気でともに生きる。

あなたの「俺流の介護」をお寄せください

### お知らせ

あなたのお近くで開かれている男性介護者の集会をお知らせください。掲載していきます

発行 男性介護者と支援者の全国ネットワーク 代表 荒川不二夫

住所 〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル京都社会福祉会館内

社団法人 認知症の人と家族の会気付 TEL.075-811-8195 FAX.075-811-8188

Eメール [info@dansei-kaigo.jp](mailto:info@dansei-kaigo.jp) ホームページ [dansei-kaigo.jp](http://dansei-kaigo.jp)